

津波の言い伝えをきっかけに、 私たちのぼうさいを考えてみました！

(沖縄県宮古島市にて実施したカフェ)
開催詳細：P51 参照

宮古島の津波は、はるか 230 年も前のお話。
今のおじいもおばあも全く知りません。
でも、島のテレビ局が残っていた映像に、津波の言い伝えを発見したことから、島のみなさんと一緒に津波のことを考えてみようと思いました。



【島でのカフェの作り方】

まずは、カフェのキーマンのみなさんと一緒に島の災害遺跡を調べました。



特徴：実際に島にある災害遺跡や踊りなど、身近な話題をもとに展開することで、興味を持って貰えるよう工夫。

次に今の島の方々が津波や災害についてどう思ってるか聞いてみました。



前の夜には子ども達を対象に、「こどもぼうさいカフェ」を開きました。



特徴：前日に子どもだけのカフェを行い、本番の盛り上げ役になって貰えるように。

いよいよ本番。最初に、地元で伝わる踊り「クイチャー」を子供たちが踊ってくれました。



特徴：地域に伝わる踊りを見て考えることにより、災害が起きるまでの時間の流れの中で、どう安全を確保していくかを考えるきっかけに。

地元のテレビ局が保存していた昔の祭祀の映像を見て、解説を聞きました。最後に、クイズをしながら、これからの島の防災について、話し合いました。



【参加者の感想】

参加者からは以下のような感想が寄せられました。

- ・ 逃げることの大切さがよくわかりました。津波のときは、すぐさま避難する（高い所に行く）ことにしたいです。家族や友達にも教えてあげたいと思いました。
- ・ 「ナーパイ」の映写や講義は大変貴重でした。幼い頃より聞かされてはいましたが少し実感できました。
- ・ 逃げられない、逃げ切れない自分を発見しました。
- ・ 分からない事がたくさんあったけど、片田先生が分かりやすく教えてくれたので分かることができました。いい勉強になりました。

【コーディネーターインタビュー】

事務局（以後、事）：宮古島でのぼうさいカフェを振り返って、いかがでしたか？

群馬大学 片田先生（以後、片）：初めて宮古島に行ったので、島の人を実感したのは、前日の「こどもカフェ」でした。みんな本当にピュアで無欲で、こちらからコミュニケーションをもって行って、それが良ければきちんと受け入れてくれる人達でした。「こどもカフェ」は、島の人を知る一番良い時間でしたね。また、島に到着してすぐに島内を見て回ったのですが、東平安名崎や帯岩、地下ダム資料館などを訪れて、宮古島がどういう環境に置かれているのかを知ることができました。今回は事務局と一緒にでしたが、子ども達と一緒に行くのもよかったかもしれません。一緒に島を回ることによって、子ども達とのコミュニケーションが広がるでしょうから。



事：今回は、地元で伝わる津波の話の題材にしましたが、

片：地元で昔から伝わっていることは、そこに住んでる人にはあまりにも日常的すぎて、それがどれだけの価値があることなのか、わからなくなることがあります。**他所から来た私達が「それはすごいことなんだよ！」と話すことで「あ、そうなんだ！」と知ることができる。**今回は、子ども達に地域に伝わるクイチャーを踊って貰ったけど、郷土芸能の重要性を実感することにもなったんじゃないでしょうか。「クイチャーやナーパイを続けていこう」と思った子ども達もいるんじゃないかな。

事：カフェの後に宮古島で震度4の地震があったのですが、参加者の方によると、その時、先生の話の思い出したそうです。今回の取り組みが「防災の芽」となって根付いたように感じました。この「芽」を大きく育てるためには、どのような活動が必要とお考えでしょうか。

片：**今回の取り組みで終わらせないことが必要**です。私は、今回参加して下さったメンバーに、また集まってもらって同じような取組ができればと思っています。防災が大事な問題であることは、今回みんなわかった。けれど、これからどうすればいいのか、理解しきれていない部分があります。これから丁寧にフォローアップすることで、今回得た知恵を定着させ、さらに対応力をつけることができます。

次回以降は、宮古島の人達の行動に変化をもたらすようなプログラムが必要です。でも、プログラムを作るためには、私自身ももっと宮古島の人達を知らなければいけませんね。宮古島の人ともっと話してもっと知ってから、プログラムを組んでいきたいです。子ども達には、君たちの勉強したことはこういうことだったんだよ、と種明かしをするように、教えていきたいです。**是非、学校教育にも防災を入れてほしい**ですね。やるとなると、何年もかかりますから、そういう「ぼうさいカフェ」を作って下さいよ。

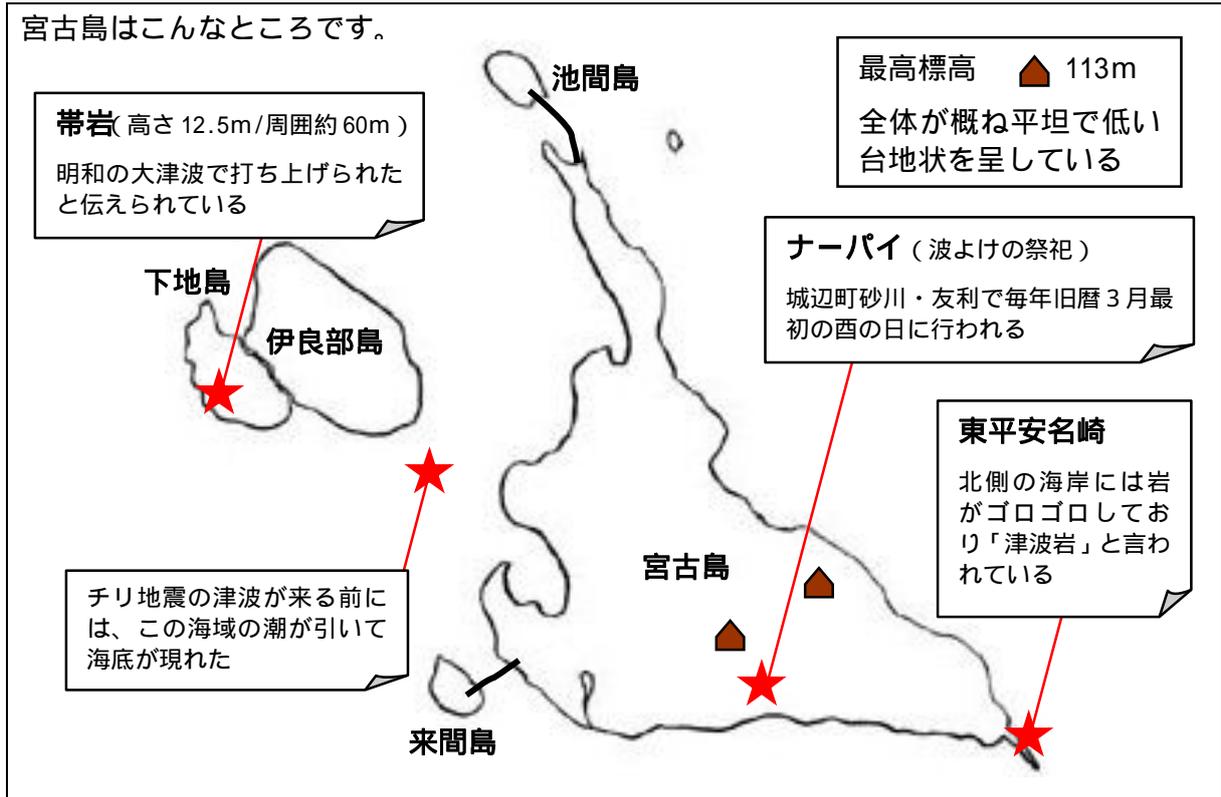
事：そうですね。「ぼうさいカフェのその後」を見るためにも、長期的にフォローアップできればと思います。さて、今回の「ぼうさいカフェ」は一段落なのですが、これからの「ぼうさいカフェ」は何を目指すべきだとお考えでしょうか。

片：防災というのは、その地の自然環境のなかでその恵みを楽しみながら、その裏側で生じる災いとどのように向かい合うかという議論です。防災は、単に自然を恐れ、その災いから身を守る術を習得することだけではなく、自分の暮らす地域の自然や歴史を良く理解し、その地の自然に向かい合う姿勢そのものを学ぶことが重要だと思います。つまり**「勉強を教えるのではなく、勉強方法を教える」そんなぼうさいカフェ**を開催して行って欲しいと思います。

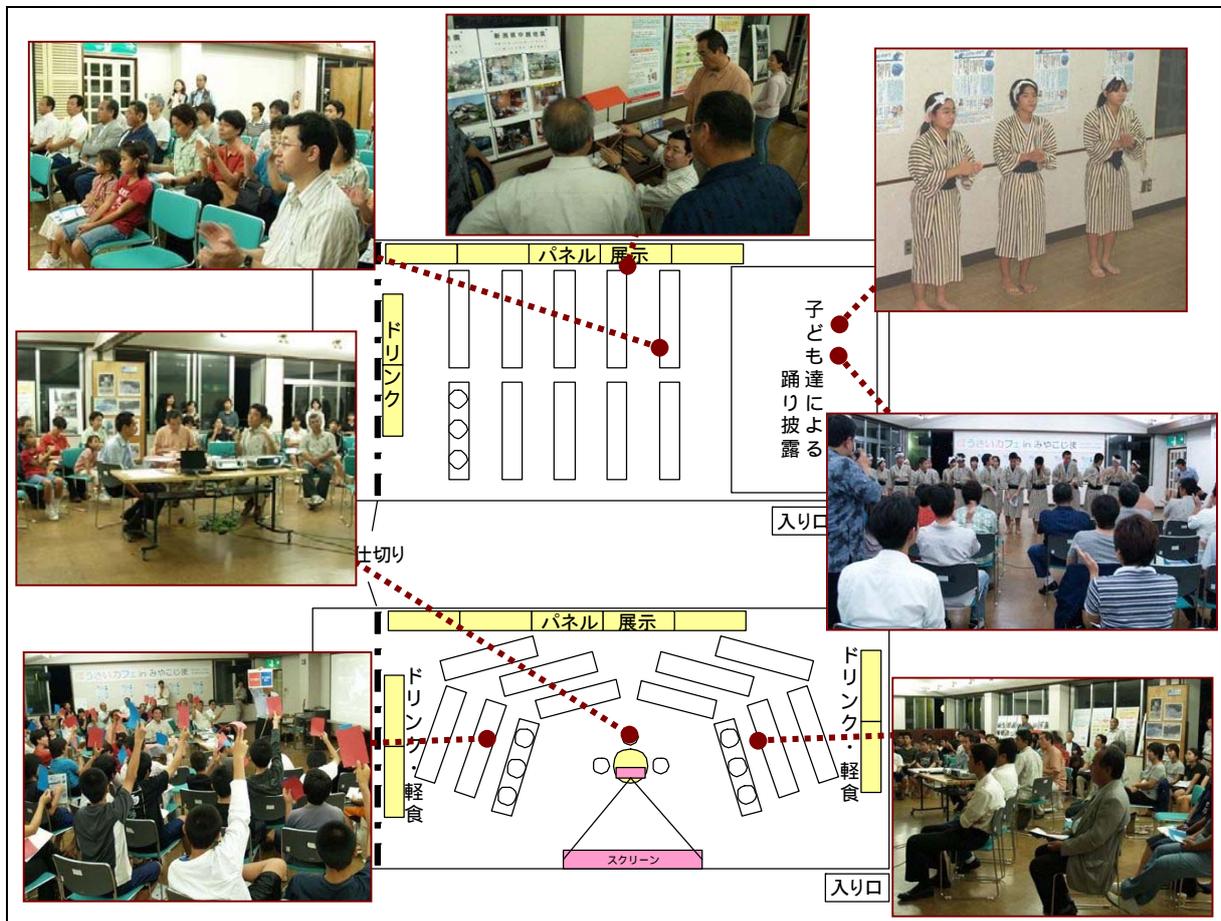
事：片田先生、ありがとうございました。

【島の地図】

宮古島はこんなところです。



【会場のレイアウト】



【開催のポイント】✍️

このぼうさいカフェでは

1. 地域の伝統文化から今を知る
2. 先人の知恵から災害に備えることの重要性を学ぶ
3. 津波に関するクイズを通じて逃げることの重要性を学ぶ

の3部構成とし、津波の災害現象や避難の重要性をあらためて認識して頂くことに重点をおきました。

伝統文化の昔と今をカフェ内で再現することで、先人の知恵を現代に伝え、これからの津波避難を考えるきっかけとなりました。

【やってみませんか】💡

開催の中心となる地域文化を詳しく調べてみましょう。調べる時は、地域の文化や災害の歴史にも目を向けてみると、意外なことが分かるかもしれません。

過去の災害情報は

「図書館、博物館、教育委員会、気象台、行政機関、地元新聞社、地元テレビ局」等で調べることができます。過去の災害記録の掘り起こしや地域での歴史的人物、名産品、観光資源等にも目を向け、防災的な観点での掘り起こしを行いましょう。きっかけとなる地域の文化として、「踊り、演舞、演劇、演奏、歌・合唱」等があります。

やりかたは下記のようなものがあります。1つだけでなく、複数を組み合わせるのも効果的です。

フィールドツアー	地域を講師と共にツアー。地域の危険な箇所、逃げるポイントなどを聞く。
お話し会	講師を中心に、災害について不安に思っていること、疑問に思っていることを話し合う。
防災講座	学校の授業の一貫として、講師による防災講座を実施する。
上映会	過去の災害や災害にまつわる行事の映像を見る。
語り部によるお話し会	災害の経験者を中心に、災害時どうであったか、被害状況や避難状況等の体験談を聞く。
避難訓練	津波を対象として、海辺からの避難を実施する。終了後、講師と共に逃げるポイント、等について話し合う。